

吹田市立博物館開館20周年記念
平成24年度（2012年度）秋季特別展

ニュータウン半世紀展－千里発・DREAM－

会期 平成24年(2012年)10月13日(土)～11月25日(日)



丘の上にひろがるあこがれの団地群（青山台）

吹田市立博物館にニュータウン展が帰ってきました。当館の新しい市民参画型展覧会づくりの走りである、平成18年度の「千里ニュータウン展－ひと・まち・くらし－」から6年。以降、当館ではほとんど毎年のように公募市民による展覧会づくりを行ってきました。ここまで徹底した市民参画型の展覧会づくりは全国的にとっても珍しく、地域社会の要望や実態を反映させた博物館運営ができるひとつの方法として、「吹田モデル」と言ってもいいものです。

平成18年度のニュータウン展は、昔を懐かしむ回顧録的な展覧会として大ヒットし、全国的にも注目されました。それに対して、今回市民実行委員会のメンバーが目指したのは、50年前のニュータウン人の「夢」を感じ、今の私たちの「夢」を見つめ直し、これからの「夢」を創り、元気になることができるような展覧会です。昔を思い出したり知ったりすることは、古臭いことではなく、むしろ新鮮な驚きや新たな自分の発見といったご利益を伴ったりすることなのです。

来館者一人ひとりの「夢」と、千里ニュータウンの「夢」を重ね合わせ、これからの人とまちの関わり方を考えるきっかけにいただければ幸いです。
(当館学芸員 五月女賢司)

ニュータウンは世界のDREAMだ！

幼稚園のころ、建設されていくのを毎日見ていた団地。その団地が今、建替のため日々解体されていく。人はそれを「再生」と呼ぶが、「再生」と「死」はセットであり、日本最初の大規模ニュータウン…千里は、まさにその輪廻のエッジにいるようだ。あんなに大勢いた友達、やさしかったお婆さんは、どこへ行ってしまったのだろうか？なぜ自分だけ、ここに残っているのだろうか？

2006年春に市民企画で行った「千里ニュータウン展」は、会期44日間で通常2年分の来館者を集めるほどの人気を博し、皆の「ニュータウン」への思いが消えていないどころかすごいマダマが溜まっていることを印象づけた。その時にやりたくてできなかった企画が、「ほかのニュータウンはどうなっているのだろうか？」という視点だった。千里に続いて、日本中に大小たくさんのニュータウンが造られた。もし千里が「実験都市」としてその先頭を走っているのなら、千里で起きたことはやがて後続のニュータウンでも起きるのではないかな？その遠くの町で暮らす人たちは、10年前、20年前、30年前の自分たちと似ているのではないだろうか…？

同級生もほとんどいなくなり自分がニュータウンに残った「数少ない」ネイティブになってしまったことを自覚した僕は、かたっぱしから全国のニュータウンを回り始めた。北は旭川から南は沖縄石垣島の団地まで…そこで暮らす人たちからも話を伺った。立地条件や建設時期の社会状況などは違うにせよ、そこにはやはり共通のDNAがあり、ときとしてよそのニュータウンのうちあけ話は赤面するほど千里と似ていた。自治会のもめる理由まで…。

あらかた回り終えたときに頭に浮かんだのは、「ニュータウンは『意志』で持っている町だ」ということだ。町ではなかった郊外の丘陵や埋立地などを、一生懸命、設計者も行政も住民もよってたかって「町」にしていこうと思いいれをしていくこと…。それこそがニュータウンの本質だ。だから住民が「意志」を放棄すれば、ニュータウンは町でなくなる。社会全体が

人口減少に転換したこれからは、その意志を保てるかどうか、ニュータウンの分かれ目になるだろう。

そこに前向きな明るさが加わると、意志はDREAMになる。経済成長への夢がまだ色あせていない中国の上海郊外や、アメリカン・ドリームを世界に発信してきたカリフォルニアのニュータウンも見に行くと、ニュータウンは20世紀以降のモダンライフをつらぬく住の世界文明と言ってもいいと、そう思えてきた。遠く離れた国や土地に行っても、高い共通性が認められるのは「文化」ではなく「文明」である。

千里は日本で最初の大規模ニュータウンであり、アジアで最初の現代的な「新しい計画都市」であり、その地位は永遠に変わらない。高齢化も老朽化も、千里の実験は半世紀たった今も続いているのだ。イギリスの「田園都市」をルーツに、ヨーロッパ→アメリカ→日本…とコンセプトを引き継がれてきた「ニュータウン」は、いまアジアの各都市に広がりつつある。アジアで最初の万博を開いたエリアでもある「千里」は、その大きな流れの中で、重要な一里塚なのだ。

だから千里はいいDREAMを発信し続けなくてはならないし、建物が一代入れ替わったぐらいで「もうニュータウンも終わりか…」と嘆くのは、まったく底が浅い視点でしかない。「死」があるから「再生」がある。それでこそやっと千里は「一人前の町」に近づいていくのではないだろうか？

（秋季特別展実行委員会委員長 奥居武）



アメリカ・サンフランシスコ郊外のニュータウン
“Foster City”

東アジアにおける高度成長の時差と新生活への夢 —韓国から見る千里ニュータウン—

戦後東アジアにおける経済発展は目覚ましいことであった。我々は戦後東アジア各国の急速な経済発展を高度成長と呼んでいる。高度成長は生活水準の向上と生活様式の急激な変化をもたらした。筆者はこうした生活様式の革命的な変化を集約している場所がニュータウンだと考えている。現代東アジアのニュータウンにおける生活の変化は包括的で、短期間に起きたことであり、こうした生活変化の持つ意味はまだあまり省みられていない。

千里ニュータウンは日本最初のニュータウンとして、東アジア各国に建設されたニュータウンの現状と課題を議論するのに非常に重要な事例である。韓国では2005年末現在、全国民の52.7%がアパートまたはマンションに住んでいる。韓国土地住宅公社は2009年の時点で417地区のアパート団地を建設していた。全国台地面積の13%がアパート団地であり、新都市（大規模ニュータウン）の数は50を超えている。

千里ニュータウンの入居が始まった1962年から1970年大阪万国博覧会が開かれた時期までは、日本の高度成長が頂点に至った、まさに黄金時代である。千里での生活様式は大勢の人々が憧れていた「生活の進歩」または「生活の高度成長」の一つのモデルであり、文化遺産である。日本を追いながら「生活の高度成長」を経験してきた韓国、中国、アジア各国のニュータウン住民と政策決定者らは千里の歴史と現状に注目しなければならない。千里住民の生活経験と記憶は当地域を超えて日本の経験及び記憶であり、東アジアまたは人類社会の経験及び記憶である。



日本と韓国のニュータウン研究者。
奥居武氏（左）と筆者。千里初訪問時

まちびらき50周年を迎える千里住民や地域専門家の問題意識は衰退と再生のように見える。このキーワードは人と物、両方に該当するものであろう。衰退と再生は単に住民が高齢化し若い新住民に代わる問題とか、アパート団地や商店街の建て替えの問題を指す言葉に留まらない。高齢化した住民たちは急激な社会変化に対応してきた生活の知恵を持っており、老朽化した建物は高度成長期の日本を再現する歴史的意味を持っている。こうした知恵と歴史的意味に対する省察があるからこそ、衰退に対する悲観的認識が楽観的な歴史認識に変わり、創設時期の問題点を克服する真の再生の論理が生まれるのだろう。千里を一流の町に盛り立てるのに貢献した万博公園と国立民族学博物館が近くにあるように、この省察の作業は国際化すればするほどよいだろう。

千里の現状においては、伝統的家観念の変化と地縁的人間関係の様相について特に関心を持っている。1960年代職場を求めて故郷から離れ都市にきた千里の現在の老人たちはどのような家庭（家）を築き、その家をどのように受け継がせようとしているだろう。家族の絆が弱まる中で千里の老人たちはどのような人間関係に頼っているのか。また自分の故郷についてはどのような観念を持っているだろう。

千里住民の約60%が40年以上千里に住み続けてきた最初の入居者だ（2003年の統計で30年以上の居住者）ということは韓国のニュータウンでは考えられない現象である。韓国では様々な理由でニュータウンやアパート団地を転々とする人々が大勢である。千里ニュータウンでは自治会、NPO団体、福祉団体などを中心とする地縁的人間関係が活発に動いているように見える。地域社会が高齢化、少子化、孤独死などの社会現象にどのように対応していくかも筆者が注目するところである。これから筆者の研究が日本と韓国のニュータウン住民たちの相互理解と対話を増進し、東アジアの高度成長の中で起きた生活の進歩を省察する刺激剤になることを願っている。

（ソウル大学校人文韓国(HK)研究教授 陳泌秀)

ニュータウンがつなげる「夢」

神戸女子大学の家政学科は神戸市須磨区にあります。私たちと千里ニュータウンとの出会いは、2011年の2月に遡ります。このとき、須磨区では須磨ニュータウンの誕生40周年を記念して「須磨ニュータウン展」が開催され、神戸女子大学は「須磨ニュータウンの過去・現在・未来」をテーマに出展しました。開催期間中に会場を訪れてくださった千里ニュータウンの方が、その様子や感想を吹田市立博物館のBlogに掲載してくださいました。そして、そのBlogを発見した神戸女子大学の学生たちが嬉しさのあまり続々とコメントを投稿し、そこから千里ニュータウンの方との交流が始まりました。

ニュータウン研究の楽しさに魅せられた学生たちの探究心は深まり、2012年2月の須磨ニュータウン展にも意欲的に取り組みました。これには千里の方々が大学してお越しくださり、私たちは熱烈に歓迎しました。このような素敵な出会いとつながりから、今回「千里ニュータウン展にも関わりませんか?」とお声をかけて頂いたときには、飛び上がるほど嬉しかったのですが、「地元でない千里の地域で、本当にできるのだろうか?」という不安も膨らみました。なぜなら、私たちは暮らしを再現する模型を作製するときに、入念なインタビューやお宅訪問という形で調査をしてきたため、千里という馴染みの少ない地域で調査ができるのか、と思ったからです。しかし、千載一遇の

チャンスです。熟慮の末、「やってみよう!」ということになりました。

実際にスタートしてみると、私たちの調査にどれだけ多くの方がご協力を申し出てくださったことでしょうか! 50年前の千里ニュータウンで入居が開始された頃のお話を聞かせて頂けるというのは、本当に夢のようでワクワクしました。廃墟^{はいきょ}のような住戸に実測調査のために入ったときには、ドキドキしました。

須磨と千里と比較して、何が違うのか? 「大阪万博」があったことはとても大きいです。万博が持つ爆発的なエネルギーというものは、本当に凄^{すご}いと感じました。何人もの居住者の方から「最初は、2、3年住んだら引っ越すつもりで入居したんやけど、万博のおかげで周りが便利になって住み心地が良うなって、ずっと住んでしもた」というようなお話を伺いました。

千里ニュータウンの魅力は何でしょうか。それは「暮らしやすさ」と「つながりを作る力」ではないでしょうか。集落のなかったところに暮らしやすいまちを作り、そこに息づく人をつなげた。千里は、そんな力があるニュータウンだと思います。その力の源泉となったのが「夢」でしょう。人は、夢を持つと強くなるのです。50周年を記念して開催される千里ニュータウン展のテーマは「夢」です。私たちは、千里ニュータウンが「夢」であふれていた50年前の暮らしを再現します。

(神戸女子大学家政学科准教授 梶木典子)



ヒアリング調査の様子



実測調査の様子

あこがれのニュータウン

1970年、私たちの結婚生活は千里山近辺の2DKアパート住まいから始まった。横目で千里ニュータウンを眺めながら。年長の友人から、今度ニュータウンに引っ越した、と転居通知が届いた。「雨の日は駅まで行くのに長靴履きだ」（当時、まだ道路の舗装が追いついていなかった）と少しの不満と喜びを交えた文面を覚えている。ニュースでぬかるみに足を取られる通勤者の映像、テーブルとイスで食事するモダンな光景などを目にした記憶がある。

何度かの引っ越しの後、ニュータウンに隣接する山田西地区のマンションを最終的に決めた。高野台地区に隣接し、公社・大阪府・民間の開発業者で作った街。近隣センターが作られ、幼稚園から中学校まで同時期に開校した。先進的な理念とルールで作上げたニュータウンに、似ているようで、ちょっと違うネオ・ニュータウンの誕生だ。素晴らしく広い道路、確保された歩道や緑陰、広い敷地にたっぷりの緑、そ

して、高層の住宅や大きな戸建住宅。あこがれのニュータウンを横目に見ながら、ネオ・ニュータウンの住民たちは、ちょっと規模は小さいけれど、自分たちにとってのふるさとを営々と造り始めた。まちづくりの意気に燃えて！

10年から15年先を歩むニュータウンは、（ネオ・ニュータウンの）私たちにまちづくりの課題や問題点を背中で見せてくれる。清潔で美しく陰のない街はそれなりに完璧だ。しかし、あまりに陰のない街というのも…。住民の心を癒す赤提灯ぐらいはあってもね。

あれから50年経ち、千里ニュータウンは高齢化という課題に果敢に取り組んでいる。住まいを購入し、子育てする時期も共有した。今度は各世代に開かれた街にしよう。市民活動もここから大きく育ってきた。古いしがらみにとらわれず、新しい価値観を作り出したニュータウン市民万歳！（尾浦美久子）

千里ニュータウンの思い出

私は1962年、日本初の大規模ニュータウンの街開きの年に生まれた。2才で出来立てホヤホヤの団地に移り、この街が好きでずっと住んでいる。

囲み配置の団地の中にはいくつもの公園があり、遊具も全て新しく嬉しかったのを覚えている。缶けり、かくれんぼ、鬼ごっこ等、何をするにも隠れるところも多く、ドッチボールや野球をするにも多くの壁があり好都合なことが多かった。毎日毎日、同じ階段の友だち達と暗くなるまで遊んだものだ。

家の向かいに「関西留学生会館」があり、多くの外国人と友達にもなれた。仲良くなると部屋に招いてもらえ、見たことのないものや、食べたことのないものも口にした。テニスコートやバスケットゴールもあり使わせてもらった。小学校はどんどん人口が増え、教室が足りなくなり建て増しが進んだ。新しい街だから校舎も体育館もプールも新しく綺麗なものだ。

大人になり、結婚しても同じ家に住み続けた（両親が他に移り住んだ）。子育ても

した。自分の遊んだ公園で自分の子供が遊ぶ。家の中からその様子が見下ろせるのも団地の特徴で安心できた。何より嬉しかったのは、自分が通った学校に我が子が通い、入学式、運動会、卒業式で一緒に校歌を歌えたこと。

約半世紀になるこの街。団地の建て替えも進み、また若い夫婦が入居しはじめ、新しいニュータウンになるだろう。緑が多く、静かで交通の便もよく子育てに最適な街。私はこの街が大好きだ。ずっとこの街に住み続けるだろう。（茂見晋司）



すべり台で遊ぶ筆者。吹田市津雲台にて、1965年頃

すいたの石造物①



垂水神社「狛犬」



吹田は古来、京一大坂をつなぐ要衝の地としてさまざまな文化が育まれてきました。その中の一つに石造物が挙げられます。寺社をはじめ、旧街道沿い等には、主として江戸時代の燈籠・狛犬・鳥居・道標などが数多く残っています。本コーナーでは、そうした石造物を通して吹田の文化財の魅力を紹介したいと思います。今回は、眼孔の穿たれた丸い目が愛らしい垂水神社拝殿前の狛犬です。

垂水の滝で知られる延喜式内社・垂水神社（吹田市垂水町）の拝殿前に、一對の石造狛犬（以下、本像）が奉獻されています。本像の基壇には銘文があり、これによって、奉獻年代、施主、石工が分かります。また、珍しいことに四言の漢詩文が基壇に刻まれていて、たいへん興味深い像です。

まず、作風をみてみましょう。阿形（写真右）・吽形（写真左）ともに、前足を立て、後足は折り曲げて腰をおろして、顔はややひねって前方を向いています。額には巻毛が垂れ、耳は横に垂らし、大きめに表された目には二段階で孔が穿たれています。首回りには巻毛と筋の入った直毛が垂れています。胸部は浅く彫り窪められており、前足・後足ともに指が表され、足の甲および足先裏から膝横にかけて先端を巻いた毛が生えています。尻尾は柏葉状に七筋に分かれており、いずれも先端が渦状になっています。やや胸厚ですが、全体に破たんがなく、端正な体つきといえます。また、爪先・筋目の細かい表現や背骨の微妙な盛り上がりなど、ある程度の技量の高さが認められます。

次いで、基壇の銘文を確認しておきます。

阿形（正面）

牆以衛宮 人換彼隼 王擬形獸 犬奮乎石

同（尾側）

通奏／村田源右衛門／村田五良兵衛

吽形（正面）

眼光如電 相對將吼 退耶制魔 儼莊廟丘

同（尾側）

享和二年壬戌／秋九月／吉野五運法橋／藤原徳綱

新置／焉謹銘併題額

同（下段尾側）

吹田村／石工 定七

以上の銘により、本像は、吹田村の石工・定七が制作し、享和2年（1802年）、吉野五運が奉納したものであるとわかります。

漢詩は「牆は以て宮を衛り、人は彼の隼に換う。王は形獸を擬し、犬は石に奮わる。」（阿形）、「眼光は電の如く、相對して將に吼えんとす。耶(邪と同義)を退け魔を制し、儼として廟丘を莊る。」（吽形）と読み、本像が威厳をもって宮を守る存在として作られたことがよく分かります。

施主である吉野五運は、「人參三蔵圓」という薬を売って富を得た大坂島之内鰻谷の薬種商です。その名は世襲され、享和2年時の当主は第4代五運（寛斎）でした。寛斎は旧垂水村の村田家で生まれ、のち吉野家に養子に入ったといえますから、本像が奉獻されたのも、自らの出身地という関係からでしょう（ちなみに絵師・伊藤若冲を庇護し、豊中・西福寺の襖絵を描かせたのは、2代五運〔融斎、寛斎の養父〕であるといわれています）。

また、本像の作者「定七」は、吹田市域で同じ「定七」銘を持つ狛犬として、高浜神社像（寛政12〔1800〕年作）、佐井寺伊射奈岐神社像（文化7〔1810〕年作）が知られていて、本像に「吹田村石工」とあるように吹田で活躍していました。これら三組の像は、歯や尻尾、体軀などに作風の共通点はあるものの、それぞれ異なる部分も少なからずあるので、同一人物の作というよりも、同一工房の作と考えておきたいと思います（尚、石工銘はありませんが、佐井寺伊射奈岐神社像と作風の似たものとして片山町・素盞鳴尊神社像が挙げられます）。吹田には江戸時代の狛犬がまだまだいます。是非、自分のお気に入りを探してみてください。

（当館学芸員 寺澤慎吾）

〔参考文献〕

奈良文化財同好会狛犬の会『狛犬の研究 大阪府の狛犬』1999年
吹田市立博物館編『吹田の石造物—神社編—』吹田市教育委員会、2003年
勝部明生「名工『石工吹田村定七』」（吹田市立博物館編『吹田の石造物—寺院編—』吹田市教育委員会、2004年、第二章第五節所収）
豊中市史編さん委員会編『新修豊中市史 第6巻 美術』豊中市、2005年

し きんざん 紫金山公園の野草2

紫金山公園は昭和48年（1973）開園で、面積約7.2ha（^{しゃか} 釈迦が池約4.4haを除く）の総合公園です。公園内には豊かな緑が残され、近年は市民参画^{さんかく}で管理が行われています。また、当公園はモニタリングサイト1000里地調査*の対象地にもなっています。

今回、紫金山公園の一角にある吹田市立博物館が昨年の夏季展示及び秋季特別展^{いっかん}の一環として行った自然に関するイベントについてご報告いたします。

当博物館は3階横広場及び周辺を対象に、平成23年（2011）5月～10月に野草の簡略な調査を行い、その成果をもとにして同年7月23日、10月29日の2回に紫金山公園で野草の観察会（「野草探索1・2」）を行いました。

「野草探索1・2」では、まず当博物館講座室で紫金山公園の概略と植物の分類等について基本的な解説を行い、次に当博物館の3階横広場に場所を移動し、参加者にレジュメのチェックシートを使って野草を探していただいた後、野草の解説を行いました。

最後に紫金山公園内の水田周辺へ移動し、付

*公益財団法人 日本自然保護協会が平成18（2006）年度より環境省の請負事業として実施している調査。全国1,000か所で月1回程度行う動植物の生息調査を100年継続して行う予定。



「野草探索1」の風景

近の野草の解説を行ないました。参加者数は7月23日 18人、10月29日 11人でした。

チェックシートを使ったレジュメとその解説という方法は丁寧^{ていねい}でわかりやすいと概ね好評であり、参加者にふだん見過ごされがちな野草に興味を持っていただけたのではないかと思います。

本年は6月27日に3階横広場と西側に隣接する土地（仮に「野草園」とする）の野草の簡略な調査を行なった結果、3階横広場で15種、「野草園」で21種の野草が認められました。これからも経年^{けいねん}的に調査を続けていけば、野草の変遷^{へんせん}がわかり、ひいては環境の変化を探る一資料になるのではないかと思います。

（文化財保護課 西本安秀）

番号	種名	科名	種類	原産地	場所		分類
					3階横広場	「野草園」	
1	オオバコ	オオバコ科	多年草	在来種	○	○	双子葉 合弁花 類
2	ウラボシチコグサ	キク科	多年草	南アメリカ	○	○	
3	セイヨウタンポポ	キク科	多年草	ヨーロッパ	○	○	
4	ノゲシ	キク科	越年草	ヨーロッパ	○	○	
5	ヘラバヒメジョオン	キク科	多年草	北アメリカ	○	○	
6	ヨモギ	キク科	多年草	在来種	○	○	
7	トキワハゼ	ゴマノハグサ科	1年草	在来種	○	○	
8	キュウリグサ	ムラサキ科	越年草	在来種	○	○	
9	コマツヨイグサ	アカバナ科	越年草	北アメリカ	○		双子葉 離弁花 類
10	イヌガラシ	アブラナ科	多年草	在来種		○	
11	マメグンバイナズナ	アブラナ科	越年草	北アメリカ	○		
12	オッタチカタバミ	カタバミ科	多年草	北アメリカ	○	○	
13	ムラサキカタバミ	カタバミ科	多年草	北アメリカ	○	○	
14	イヌタデ	タデ科	1年草	在来種		○	
15	アレチギシギシ	タデ科	多年草	ヨーロッパ		○	
16	ドクダミ	ドクダミ科	多年草	在来種		○	単子葉 類
17	ヘビイチゴ	バラ科	多年草	在来種		○	
18	シロツメクサ	マメ科	多年草	ヨーロッパ	○	○	
19	ニワゼキショウ	アヤメ科	多年草	北アメリカ	○		
20	クサイ	イグサ科	多年草	在来種	○		
21	エノコログサ	イネ科	1年草	在来種		○	
22	カゼクサ	イネ科	多年草	在来種		○	
23	カモジグサ	イネ科	多年草	在来種		○	
24	シマスズメノヒエ	イネ科	多年草	南アメリカ	○	○	
25	コガマ	ガマ科	多年草	在来種		○	
26	ネジバナ	ラン科	多年草	在来種	○		
					15種	21種	

市立博物館3F横広場及び「野草園」の野草一覧



5. ヘラバヒメジョオン



26. ネジバナ



7. トキワハゼ

「ニュータウン半世紀展」関連イベント 会期 10月13日(土)～11月25日(日)

オープニング・イベント 申込不要、先着120人、参加費無料
 10月13日(土) 午後1時～2時20分
 開会式、展示案内、千里ドリーム・コンサート(紫金山グリーン合奏団、女声アンサンブルアトリエ)

講演会など 申込不要、先着120人、参加費無料
 10月13日(土) 午後2時30分～4時30分
 団地再生の夢 関西大学教授 江川直樹氏
 10月14日(日) 午後2時～4時
 韓国ニュータウンの形成過程と現状
 ソウル大学校人文韓国(HK)研究教授 陳泌秀氏
 10月20日(土) 午後2時～4時
 千里ニュータウンの現状と取組みについて
 吹田市千里再生室主査 柿本和人氏
 10月27日(土) 午後2時～4時
 熟年留学生の見たオランダの住宅事情と千里再生への提案
 関西大学客員研究員 角橋徹也氏
 10月28日(日) 午後2時～4時
 造られたまちから創るまちへ
 京都市立芸術大学教授 藤本英子氏
 11月3日(土・祝) 午後2時～4時
 理想都市「千里ニュータウン」の計画と現状
 都市デザイナー 太田博一氏
 11月4日(日) 午後2時30分～4時30分
 千里ニュータウンを世界遺産に
 大阪人間科学大学教授 片寄俊秀氏
 11月23日(金・祝) 午後1時～2時20分
 リカちゃんハウス×50年前の千里ニュータウンの暮らし
 神戸女子大学准教授 梶木典子氏
 11月23日(金・祝) 午後2時30分～5時
 日本のニュータウン・世界のニュータウン
 ニュータウン研究家 奥居武氏ほか
 11月24日(土) 午前11時～正午
 歴史講座 校歌にみる千里ニュータウン～うたわれた郷土のイメージ
 当館副館長 藤井裕之
 11月25日(日) 午後3時～5時15分(随時受付、要観覧料)
 館長ギャラリートーク
 当館館長 中牧弘允

フォーラム 申込不要、先着120人、参加費無料
 10月21日(日) 午後2時～4時
 ご当地自慢 司会 建築家・画家 冷水隆治氏
 11月24日(土) 午後1時30分～4時
 千里ニュータウンの未来を語る
 ・講演 見せたい住宅、住みたいタウン～千里ニュータウンの軌跡～
 当館館長 中牧弘允
 ・パネルディスカッション

にぎわいイベント 参加費無料
 11月4日(日) 午前10時～、午前11時～、正午～、午後1時～、午後2時～
 ミゼットがやってきた!
 ～昭和の旧車、助手席試乗&記念撮影会～ 旧車運転同好会
 試乗は各回約30分。定員各回10人。当日、各回30分前より整理券を配付。
 雨天の場合、11月25日(日)の同時刻に延期。
 11月10日(土) 午前10時30分～午後4時
 みんなで暮らすニュータウン～多様な文化の中で共に暮らそう～
 お菓子の無料配布(午前10時30分～先着180食、午後2時30分～先着120食)、音楽、トークショー
 11月11日(日) 午前10時～午後4時
 みんなで暮らすニュータウン～障がい者も高齢者も共に～
 午前11時～午後2時 引退した盲導犬とのふれあい
 午後2時～3時 講演 くらしに夢や豊かさを求めて26年
 NPO法人友・友代表理事 小林房子氏
 ほかに、上映会、高齢者疑似体験、パネル展示

※特別展会期中の土・日・祝日(10月27日、11月17日、24日)をのぞくは、開館時間中(正午～午後0時45分をのぞく)に、神戸女子大学リカちゃんハウス制作チームによる展示解説を実施します。

※11月11日、18日は、ニュータウン・東北などの物品を販売(午前11時～)。収益金は復興支援のために全額寄付します。

寿イベント ミュージアム・ウェディング
 11月17日(土) 午後2時～4時
 ※一般公開をします。みなさんでお祝いしましょう。
 ◇募集カップル/2組(下記条件を全て満たす方)
 ◇条件/千里ニュータウンに40年以上お住まいのご夫婦/ご夫婦とも70歳以上の方
 ◇申込締切/10月10日(水)必着。多数抽選。
 ◇申込/ハガキまたはファックスに、住所、お二人のお名前、年齢、電話番号、応募理由を書いて、博物館へ。参加費無料。詳細はホームページをご覧ください。

おでかけイベント 要申込、参加費無料
千里緑地体験ウォーク
 10月13日(土) 桃山台～博物館 集合:桃山台駅南改札前
 10月21日(日) 北千里～山田 集合:北千里駅改札前
 10月27日(土) 山田～博物館 集合:夢つな未来館前
理想都市の今を見て未来を夢みて歩く
 10月17日(水) 南千里地区 集合:南千里駅改札前
 10月24日(水) 千里中央地区 集合:千里セルシー1階ステージ前
 10月31日(水) 北千里地区 集合:北千里駅改札前
団地再生見て歩き
 11月7日(水) 新千里南町～佐竹台
 集合:桃山台駅南改札前
団地名勝見て歩き
 11月18日(日) UR千里竹見台団地～新千里東町団地
 集合:南千里駅改札前 要交通費(80円)
 ◇時間/午前9時30分～正午(11月18日のみ午前10時～正午)
 ◇申込/イベント名・参加日(複数可)・人数・住所・名前・電話番号を書いて、各イベント開催日の5日前までに、ハガキまたはファックスにて博物館へ。いずれも全員参加できます。少雨決行。

上映会 申込不要、先着120人、参加費無料
 吉永小百合主演 日活映画『青春のお通り』
 10月19日(金) 午後1時30分～3時15分
 11月2日(金) 午後1時30分～3時15分
 11月3日(土・祝) 午前10時～11時45分
映像いろいろ～千里山団地から千里ニュータウン、そして
 10月26日(金) 午後1時30分～2時45分
 11月9日(金) 午後1時30分～2時45分
ニッポン建設映像祭番外編 in 千里ニュータウン
 11月10日(土) 午前10時～正午
 アンダーコンストラクション・フィルム・アーカイブ(UCFA)代表 吉永健一氏
映像いろいろ～千里ニュータウン誕生の記録～
 11月16日(金) 午後1時30分～3時

クイズラリー 申込不要、参加費無料
 10月28日(日) 午前10時～午後4時 随時受付(午後2時受付終了)
 まちかどクイズラリー in 千里ニュータウン
 集合・解散 千里ニュータウンプラザ6階市民公益活動センター第1会議室

食イベント
 11月17日(土)・18日(日) 午後1時～4時
 すいはく20周年記念イベント「喫茶ミカ無料サービスデー」
 ホットコーヒー無料。先着200人。無くなり次第終了します。

コンサート 申込不要、先着120人、参加費無料
 11月18日(日) 午後1時30分～3時30分
 東日本大震災復興支援「チャリティー・コンサート」
 ～千里ニュータウン展から連帯の風を～ 吹田の風プロジェクト

「ニュータウン半世紀展」会期中の無料観覧日
 10月13日、11月17日、18日

吹田市立博物館だより 第51号 平成24年(2012年)10月3日発行 発行 吹田市立博物館
 〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号 TEL 06-6338-5500 FAX 06-6338-9886 ホームページ <http://www.suita.ed.jp/hak/>

■この冊子は、3,000部作成し、1部あたりの単価は26円です。